サポート情報記事

SharePoint 標準のリストから選択した項目を List Filter Online で開く

2026 © Vitextra SIA. All rights reserved.

免責事項

本免責事項の適用上、次のとおり定義します。

- **会社** (本免責事項では「当社」と表記します) とは、Vitextra SIA (Matīsa iela 61-25, Rīga, LV-1009, Latvia) を指します。
- **本ドキュメント**とは、ナレッジベースの記事を指します。
- **お客様**とは、本ドキュメントにアクセスする個人、または該当する場合は、その個人が本ドキュメントにアクセスまたは使用する際に代理となっている会社その他の法人を指します。
- **本 Web サイト**とは、https://vitextra.com からアクセスできる Vitextra を指します。

免責事項

本ドキュメントに記載されている情報は、一般的な情報提供のみを目的としています。

当社は、本ドキュメントの内容における誤りや脱漏について、一切責任を負いません。

いかなる場合も、契約上の訴訟、過失、その他の不法行為上の訴訟であるかを問わず、本ドキュメントの内容の使用に起因または関連して生じる、特別損害、直接損害、間接損害、結果的損害、付随的損害、またはその他一切の損害について、当社は責任を負いません。当社は、事前の通知なく、いつでも本ドキュメントの内容に追加、削除、または変更を行う権利を留保します。

誤りおよび脱漏に関する免責事項

本ドキュメントに記載されている情報は、関心のある事項に関する一般的な指針を示すことのみを目的としています。そのため、本ドキュメントの内容を最新かつ正確に保つために当社があらゆる予防措置を講じている場合でも、誤りが生じる可能性があります。また、法律、規則、規制は変化するため、本ドキュメントに記載されている情報に遅れ、脱漏、または不正確な点が含まれる場合があります。

当社は、誤りや脱漏、またはこの情報の使用によって得られた結果について、責任を負いません。

フェアユースに関する免責事項

当社は、著作権者から明示的な許可を得ていない著作物を使用する場合があります。当社は、批評、論評、ニュース報道、教育、学術研究、または調査の目的で、そのような資料を提供しています。

当社は、これが、米国著作権法第 107 条に規定されている、当該著作物の「フェアユース」にあたると考えています。

お客様が、フェアユースの範囲を超えて、ご自身の目的で本ドキュメントの著作物を使用することを希望される場合は、著作権者から許可を得る必要があります。

「自己責任での使用」に関する免責事項

本ドキュメントのすべての情報は、完全性、正確性、適時性、またはこの情報の使用によって得られる結果について何ら保証することなく、また、性能、商品性、特定目的への適合性に関する保証を含むがこれらに限定されない、明示または黙示を問わずいかなる種類の保証もなく、「現状のまま」提供されます。

当社は、本ドキュメントに記載されている情報に依拠して行われた判断や措置、または結果的損害、特別損害、もしくはこれらに類する損害について、たとえそのような損害の可能性について知らされていた場合でも、お客様またはその他の者に対して責任を負いません。

お問い合わせ

本免責事項についてご不明な点がある場合は、メール (support@vitextra.com) でお問い合わせください。

目次

はじめに 4

動作の仕組み 4

前提条件 5

テナント全体でのコマンドの有効化 5

特定のリストまたはサイトへのスコープ指定 7

コマンドの使用方法 8

重要 8

トラブルシューティング 9

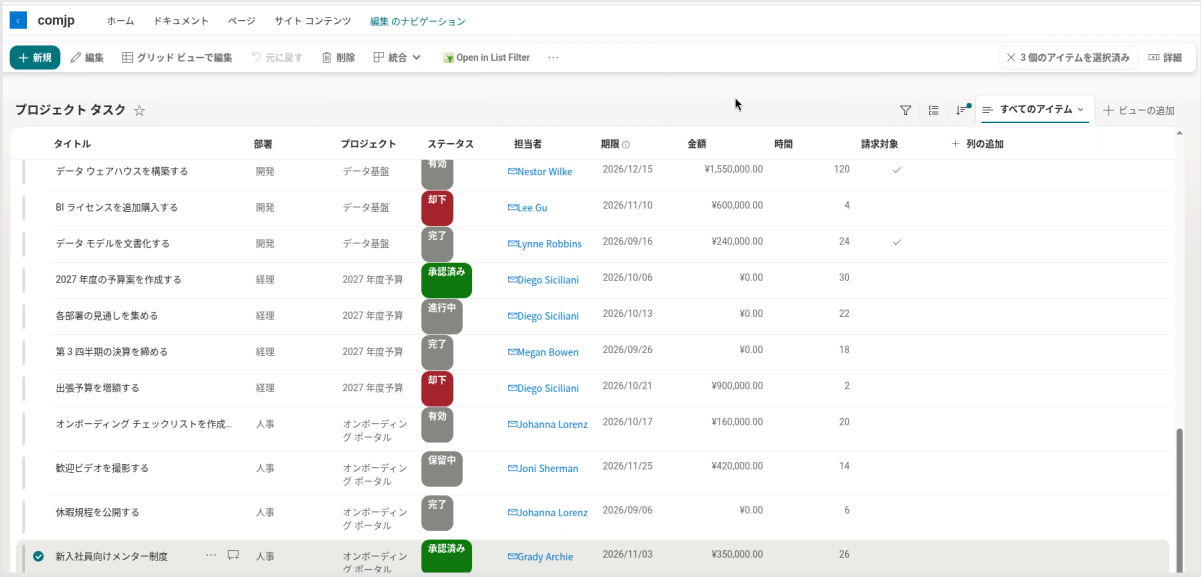
関連記事 10

期限 11

はじめに

必要な項目は、多くの場合 SharePoint のリストやドキュメント ライブラリの標準ビューで見つかります。そのうえで、まさにそれらの項目を、グループ化、集計、列のカスタム セット、Excel へのエクスポートが可能な、より高機能なビューで引き続き扱いたい場合があります。**Open in List Filter** コマンドは、この 2 つをつなぎます。これは標準のリストまたはライブラリのコマンド　　バーにあるコマンドで、List Filter Online Web パーツがあるページを開き、標準ビューで選択した項目のみを表示します。

このコマンドは、Web　　パーツと同じパッケージに含まれています。**SharePoint Framework** のリスト コマンド セットであり、有効にすると、**SharePoint Online** テナントの任意のモダン　リストまたはライブラリで動作します。この記事では、コマンドの動作、テナント全体で有効にする方法、特定のリストやサイトに限定する方法、想定どおりに動作しない場合の確認事項について説明します。



標準ライブラリのコマンド バーにある Open in List Filter コマンド

動作の仕組み

Open in List Filter をクリックすると、コマンドは選択された項目の ID を読み取り、構成されたページを新しいブラウザー タブで開きます。ID はページ アドレスのクエリ文字列パラメーター `lff` で渡されます。これは Web パーツの **Copy Link to Filter** で使用されるものと同じパラメーターで、ID *In* (選択された ID) という 1 つの条件として渡されます。この条件は、ページ上のすべての List Filter Online

Web パーツ (インスタンス識別子 *) を対象としているため、対象ページにどの Web パーツのインスタンスがあるかを知っておく必要はありません。

対象ページでは、Web パーツがパラメーターを読み取り、条件をユーザー フィルターとして適用して、一致する項目を読み込みます。条件は、フィルター パネルで選択したフィルターと同様に、結果の上にフィルター チップとして表示され、チップまたは **Clear all the filters** で削除できます。フィルターの適用後、パラメーターはアドレス バーから削除されるため、そのタブを後で更新しても選択内容が再適用されることはありません。

何も選択されていない場合も、コマンドは表示され、フィルターなしでページを開きます。その場合、Web パーツは通常どおり表示される項目を表示します。

メモ

コマンドが渡すのは項目の ID であり、項目そのものではありません。そのため、対象ページには、コマンドをクリックしたリストと同じリストが表示されている必要があります。後述の**重要**を参照してください。

前提条件

コマンドを有効にする前に、次の点を確認してください。

- List Filter Online パッケージが、テナントの**アプリ カタログ**に展開されていること。KB10251. List Filter Online のインストールとページへの追加方法を参照してください。
- コマンドを使用するリストまたはライブラリをデータ ソースとして指す、構成済みの List Filter Online Web パーツがあるページが存在すること。
- アプリ カタログ サイトの管理者アクセス権があること。コマンドは、そのサイトの **Tenant Wide Extensions**（テナント全体の拡張機能）リストで有効にするためです。

パッケージは *Make this solution available to all sites in the organization*（このソリューションを組織内のすべてのサイトで使用できるようにする）を有効にして展開されるため、個々のサイトでのアクティブ化は不要です。ただし、コマンド自体は、次に説明する構成を行うまで非表示のままです。

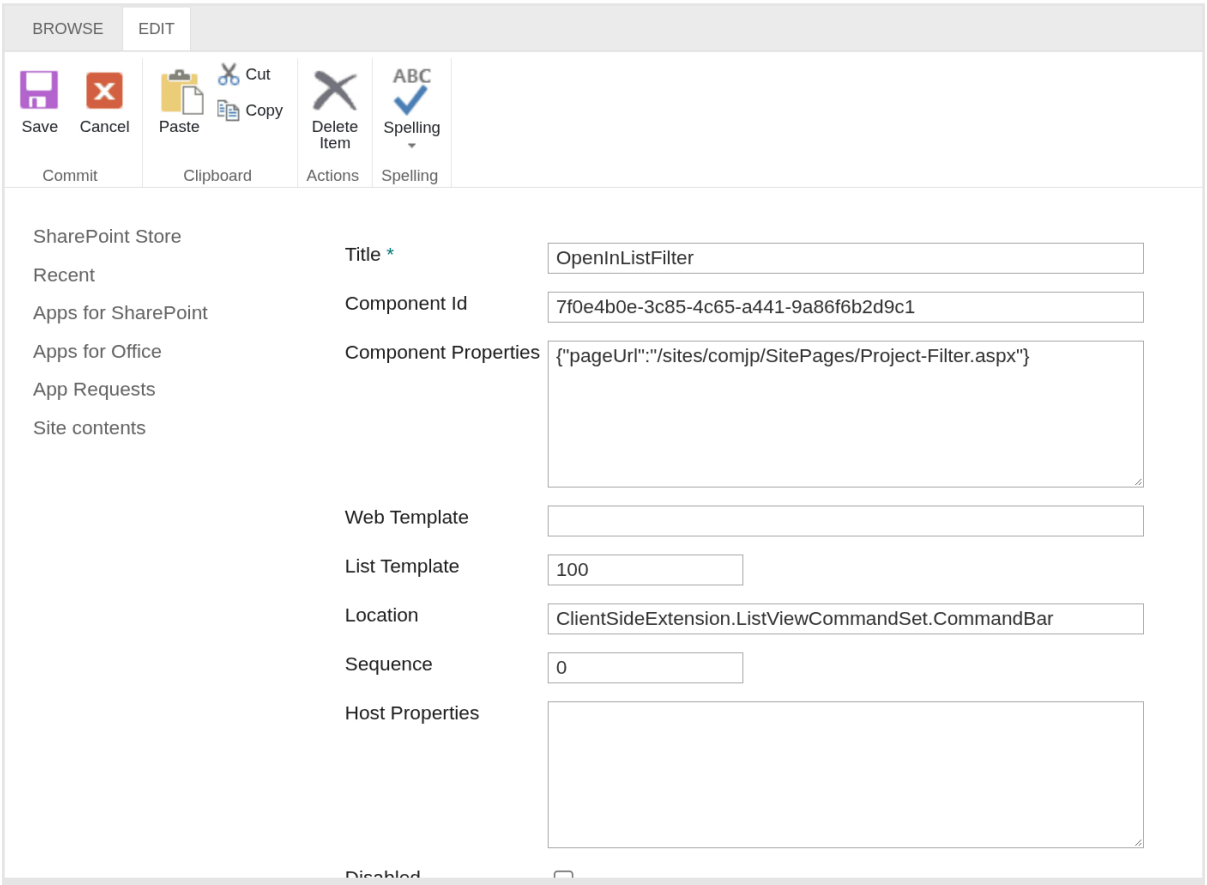
テナント全体でのコマンドの有効化

アプリ カタログ サイトを開き、**Tenant Wide Extensions** リストに移動します (**サイトの内容 → Tenant Wide Extensions**)。パッケージをアップロードすると、このリストにコマンド セットのエントリが追加されます。このエントリは **Vitextra List Filter** ソリューションに属し、コンポーネント識別子 `7f0e4b0e-3c85-4c65-a441-9a86f6b2d9c1` を持っています。複数の Vitextra 拡張機能が一覧表示されている場合は、この識別子で見つけることができます。

エントリを編集し、2 つのフィールドを設定します。

1. **Component Properties** – List Filter Online Web パーツをホストするページを指す `pageUrl` プロパティを持つ JSON オブジェクトです。絶対 URL とサーバー相対 URL のどちらも使用できます。
2. **Disabled** – エントリが無効になっていないことを確認します。無効の場合、SharePoint はコマンド セットをまったく読み込みません。

エントリを保存します。コマンドは、リスト ビューの読み込み時に `pageUrl` プロパティを読み取り、プロパティに値がある場合にのみ表示されます。`pageUrl` のないエントリでは、拡張機能が有効になっていてもコマンドは非表示のままです。



pageUrl プロパティが設定された、コマンドの Tenant Wide Extensions エントリ

メモ

Tenant Wide Extensions リストの変更は、SharePoint に反映されるまでに、数分以上かかることがあります。エントリを保存したら、リスト　ページを再読み込みしてください。

特定のリストまたはサイトへのスコープ指定

既定では、テナント全体の拡張機能は、すべてのサイトのすべてのリストとライブラリに適用されます。**Tenant Wide Extensions** リストには、適用範囲を絞り込むための SharePoint 標準の列が用意されています。コマンド セット自体には、独自のスコープ指定機能はありません。

列	機能
List Template	コマンドを 1 つのテンプレートのリストに限定します。たとえば、ドキュメント ライブラリは `101`、汎用リストは `100` です。
Web Template	コマンドを 1 つのテンプレートから作成されたサイトに限定します。たとえば、チーム サイトは `GROUP#0`、コミュニケーション サイトは `SITEPAGEPUBLISHING#0` です。
Location	コマンドが表示される場所です。エントリの作成時に SharePoint が設定した値のままにしてください。
Sequence	同じ場所に登録された複数の拡張機能の順序です。

*異なる*対象ページが必要な複数のリストでコマンドを使用できるようにするには、対象ページごとに 1 つずつ、リストに複数のエントリを作成し、それぞれに独自の `pageUrl` とスコープを設定します。1 つのエントリは、適用されるすべてのリストで同じページを開くため、リスト A の選択内容をページ A に、リスト B

の選択内容をページ B に送るには、この方法しかありません。

警告

Tenant Wide Extensions リストの列は、List Filter Online ではなく SharePoint が提供し、解釈します。使用できる正確な値については、SharePoint Framework 拡張機能のテナント全体の展開に関する Microsoft のドキュメントを参照してください。

コマンドの使用方法

コマンドを有効にすると、次の 3 つの手順で使用できます。

1 リストまたはライブラリを標準ビューで開き、行のチェック　ボックスを使用するか、行をクリックして、1 つ以上の項目を選択します。
2 コマンド バーの **Open in List Filter** をクリックします。
3 構成されたページが新しいタブで開きます。List Filter Online Web パーツには選択した項目のみが表示され、結果の上に ID 条件のフィルター チップが表示されます。

ここからは、他の List Filter Online ページと同様に作業できます。並べ替え、グループ化、項目の Excel へのエクスポート、項目のバージョン履歴の表示、フィルター パネルによる選択内容のさらなる絞り込みなどです。



選択した項目と ID フィルター チップが表示された対象ページ

重要

警告

対象ページの Web パーツは、コマンドを使用するリストまたはライブラリと同じものに対して構成する必要があります。コマンドが渡すのは項目の ID のみであり、ID はテナント内ではなくリストごとに一意です。Web パーツが別のリストを指している場合、ID はそのリストの無関係な項目に一致し、エラーが表示されないまま、ページに誤ったレコードが表示されます。

コマンドの設計から、さらに次の 2 点が挙げられます。

- Tenant Wide Extensions の 1 つのエントリは、適用されるすべてのリストで同じページを開きます。コマンドをスコープ指定しないままにすると、テナント内の任意のリストのユーザーがクリックして、そのページに移動できてしまいます。エントリにスコープを指定するか、前述のとおりリストごとに 1 つのエントリを作成してください。
- 対象ページに複数の List Filter Online Web パーツがある場合、リンクは任意のインスタンスを対象としているため、そのすべてが条件を受け取ります。各 Web パーツは、それぞれのリストに条件を適用します。

トラブルシューティング

コマンドがコマンド バーに表示されない。

- **Component Properties** の `pageUrl` プロパティが空であるか、存在しません。プロパティに値がない場合、コマンドは自動的に非表示になります。
- エントリが無効になっているか、現在のリストまたはサイトと一致しないリストテンプレートまたは Web テンプレートにスコープが指定されています。
- エントリを変更してから、リスト ページを更新していません。ページを再読み込みし、テナント全体の構成が反映されるまでしばらく待ってください。
- パッケージが展開されていないか、すべてのサイトで使用できるようにせずに展開されました。

ページは開くが、項目がフィルター処理されない、または誤った項目が表示される。

- 対象ページの Web パーツが、コマンドをクリックしたリストとは別のリストを表示しています。Web パーツのデータ ソースと元のリストを比較してください。
- 項目が選択されていませんでした。その場合、コマンドはフィルターなしでペー

ジを開きます。
- `pageUrl` が、List Filter Online Web パーツのないページを指しています。その場合、パラメーターはページで無視されます。

更新するとフィルターが消える。

- これは想定どおりの動作です。`lff` パラメーターは 1 回だけ使用され、アドレスバーから削除されます。この選択内容へのリンクを保持するには、Web パーツの **Saved Filters** メニューにある **Copy Link to Filter** を使用してください。

関連記事

ヒント

このコマンドの基盤となっているフィルター　リンクと保存済みプリセットについては、KB10253. List Filter Online でのフィルターの保存とフィルター済みビューへのリンクの共有で説明しています。データ ソースやフィルター パネルなど、対象ページでの Web パーツの構成については、KB10201. List Filter Online Web パーツの構成で説明しています。

期限

SharePoint Framework (SPFx)
SharePoint Framework (SPFx) は、SharePoint Online、SharePoint Server (オンプレミス)、Microsoft Teams 向けのクライアント側 Web パーツ、コンポーネント、拡張機能を構築するためのモデルです。SPFx のカスタマイズは JavaScript に基づいており、モダン ユーザー インターフェースをネイティブでサポートします。

SharePoint Online
SharePoint のクラウド版で、Microsoft 365 内の Web ベースのコラボレーション プラットフォームです。組織のデジタル情報、コンテンツ、ナレッジを保存、共有、管理するための幅広い機能を提供します。

アプリ カタログ
アプリ カタログは、SharePoint、Teams、その他の Microsoft 365 サービス向けのアプリを格納する特別な SharePoint サイトです。グローバル管理者または SharePoint 管理者は、AppSource マーケットプレース、カスタム開発アプリ、サード パーティ製アプリのアプリケーションを、組織の内部使用のためにアップロードして管理できます。テナントには、テナント レベルのアプリ カタログを 1 つだけ作成できます。個々のサイト コレクションには、サイト コレクション アプリ カタログを追加できます。

ドキュメント ライブラリ
ファイル、フォルダー、およびそれらに関する情報を格納する、特別な種類のリストです。リストと同様に、ドキュメント ライブラリには、個人用ビューや共有ビュー、アイテム レベルのアクセス許可などを含めることができます。

リスト
リストは、SharePoint のストレージ単位です。リストには、さまざまな種類の列、コンテンツ タイプ、ビューを含めることができます。ドキュメント ライブラリは特別な種類のリストであるため、リストの機能を継承します。